

仙台市文化財調査報告書第329集

山田上ノ台遺跡

—— 第5次発掘調査 平成19年度概報 ——

2008年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第329集

山田上ノ台遺跡

—— 第5次発掘調査 平成19年度概報 ——

2008年3月

仙台市教育委員会



写真1 SI37竖穴住居跡 全景（南東から）



写真2 発掘体験の様子 坪沼小学校（遺物包含層の調査）

序 文

山田上ノ台遺跡は、これまでの調査で旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡であることが明らかになっておりました。縄文時代の大型集落が市街地の中に良好に残る全国屈指の遺跡として評価されましたことから、本市としては、遺跡を保存し広く市民の皆様に活用していただく場として整備することとしました。そして、平成18年7月に自然と共存していた先人の暮らしに触れることのできる体験活動の場として「仙台市縄文の森広場」をオープンしたところでございます。

縄文の森広場では、これまでの調査を基に復元した竪穴住居や出土遺物などを展示しているだけでなく、多くの方々に体験を通して歴史に触れていただくため、さまざまな体験活動を企画しています。その活動のひとつとして、縄文時代の遺跡に直接触れていただくために発掘体験を企画し、市民の皆様に参加していただきました。

今年度は昨年度に引き続き、住居跡2軒と遺物包含層の調査を実施し、本書はその調査成果と発掘体験についてまとめたものです。

来年度以降も引き続き調査を行い、調査成果を基に保存活用を図り、「縄文の森広場」をより多くの市民の皆様に利用していただけるよう努めてまいります。

最後になりましたが、今後とも文化財保護行政に対しまして市民の皆様のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

仙台市教育委員会

教育長 荒 井 崇

目 次

序 文	
目 次	
例 言・凡 例	
I はじめに	1
1. 調査要項	1
2. 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
3. 調査にいたる経過	1
4. 調査の方法と経過	2
II 遺構と出土遺物	5
1. SI36竪穴住居跡	5
2. SI37竪穴住居跡	7
3. 遺物包含層	11
III 体験活動	12
1. 学校を対象とした発掘体験	12
2. 一般を対象とした発掘体験	13
3. 一般を対象とした整理作業体験	14
IV まとめ	14

例 言・凡 例

- 1 本書は、山田上ノ台遺跡の第5次発掘調査の平成19年度調査の概報である。当該調査は、平成18年度からの継続調査である。
- 2 報告書の作成・編集は齋藤義彦が担当した。
- 3 出土遺物および調査・報告書作成に関わる一切の資料・記録は仙台市教育委員会が保管している。
- 4 本報告書中の土色については『新版標準土色帖15版』（小山・竹原1997）を使用した。
- 5 図中および本文中の方位は真北を基準としている。
- 6 図中の座標値は日本測地系・平面直角座標系Xでの値である。
- 7 図中の高さ表示は海拔高値である。
- 8 遺構の略号は次のとおりである。
SI 竪穴住居跡 SK 土 抗 SD 溝 跡
- 9 遺構番号は、以前の調査で付けられていたものを踏襲している。

I はじめに

1. 調査要項

遺跡名：山田上ノ台遺跡

所在地：仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

調査期間：平成19年8月28日～平成19年10月19日

調査面積：165㎡

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会 生涯学習部文化財課整備活用係 主任 平間亮輔 文化財教諭 齋藤義彦

調査協力：仙台市縄文の森広場

2. 遺跡の位置と周辺の遺跡

山田上ノ台遺跡は、JR長町駅の西約5kmに位置し、名取川左岸にある河岸段丘上の舌状に張り出す台地の南端部に位置する。遺跡の面積は約7haで、標高は50m前後である。

本遺跡の周辺には数多くの遺跡が分布している。ここでは特に、旧石器から縄文時代について概観する。

旧石器時代では、西方約2.5kmにある上ノ原山遺跡から後期旧石器時代初頭に遡る可能性のある石器群が出土している。また富沢遺跡では、後期旧石器時代の約2万年前の森林跡が発見され、樹木や石器のほかに焼き火跡や動物の糞などが検出されている。

縄文時代では、北に隣接して北前遺跡があり、早期末の集落跡、前期末の土坑群、中期後半の集落跡が発見されている。一方、本遺跡では、中期初頭の土坑・遺物包含層、中期末の集落跡、後期前半の遺物包含層が検出されている。両遺跡を合わせると、前期末から後期前半にかけて遺構遺物の変遷が連続して捉えられることから、当時この一帯は一体的な生活空間であったと考えられる。

周辺の丘陵や段丘上にある大規模な集落跡として、前期前葉の三神峯遺跡、中期の上野遺跡が古くから知られている。低地には、名取川や笹川の自然堤防上や自然堤防から後背湿地にかけて下ノ内浦遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡等があり、早期から晩期にかけての遺構や遺物が検出されている。特に、下ノ内遺跡では中期末の集落跡が発見されている。

3. 調査にいたる経過

本遺跡では過去4回の調査が行われている。昭和55年度に宅地造成事業に伴う第1次調査(仙教委：1981)、昭和59年度に仙台市博物館で資料活用に伴う第2次調査(仙教委：1985)、平成14年度に旧石器発掘ねつ造問題に伴う第3次調査(仙教委：2002)、平成17年度に仙台市縄文の森広場建設のための第4次調査が行われ、平成18年度より第5次調査を行っている。今年度の調査は昨年度からの継続調査である。

なお、本遺跡は、これまでの調査で旧石器時代から近世までの遺跡であることが分かっている。特に第1次調査において、縄文時代中期末(大木10式期)の堅穴住居跡38軒、中期から後期初めにかけての貯蔵穴や落とし穴などの土坑約320基、中期から後期初めにかけての遺物包含層3ヵ所などが発見され、集落構造全体がほぼ把握できる良好な遺跡として、また、縄文時代の大集落が市街地の中に良好に残る全国屈指の遺跡として評価された。本市はその重要性から遺跡を保存することを昭和56年に決定し、平成18年7月に遺跡活用場として仙台市縄文の森広場をオープンした。

縄文の森広場の基本方針の一つとして、山田上ノ台遺跡の発掘調査を継続し、その成果を展示や体験活動の充実に反映させることがあった。特に西半には、第1次調査で遺構確認にとどめた未調査地区があり、発掘調査を継続することは、縄文時代の解明に寄与するばかりでなく、児童・生徒を含む一般市民を対象とした発掘体験の場として活用し、文化財保護意識の啓発を図ることに寄与するものと考えられ、発掘体験を取り入れた調査を昨年度より行っている。

4. 調査の方法と経過

調査対象地区は仙台市縄文の森広場内の第1次調査(昭和55年)で遺構確認にとどめた場所とし、毎年一定の期間継続して調査を行っていくこととした。今年度は昨年度調査を行った1区(SI36竪穴住居跡とSI37竪穴住居跡)と、2区(遺物包含層)の継続調査を行った。1区は第1次調査の図面を基にSI36とSI37が調査区内に入るように10m×12mの調査区を設定し、2区は遺物包含層の境界域が調査区内に入るよう3m×15mの調査区を設定した。

1区のSI37は土層観察用十字ベルトを設定し、ベルトを境に南東部をa区とし、時計回りにb区、c区、d区とした。2区の遺物包含層については、3m×3mのグリッドを設定し、東部からG1、G2、G3、G4、G5と呼称して精査を行った。

今年度は、昨年度未了であったSI36の炉跡の精査、SI37の床面の検出、さらに遺物包含層については、状況把握をその目的とした。

遺物については、必要に応じて層ごとに出土状況図を作成し、堆積状況に留意し取り上げた。写真撮影は、35ミリ判モノクロ、カラーリバーサル及びデジタルカメラを使用した。また、サンプリングエラーを極力なくすよう注意している。微細な遺物についても採取するため、人力での掘削による排土は、すべて7mmメッシュのふるいにかけている。

8月28日(火)より、重機による平成18年度調査の埋め戻し土除去作業を開始した。細部の埋め戻し土除去は人力で行った。

1区では、予定通りSI36、SI37、SI35・SI38の一部、土坑8基、溝跡1条を確認した。今年度の調査はSI36と、SI37を中心に行い、その他の遺構については確認のみで掘込み、精査等を行っていない。

また、天候不順や日程の条件などにより、遺物包含層の精査は次年度行うこととした。

今年度の調査経過の報告会として現地説明会を9月14日(日)の午前と午後2回行い、約160名が参加した。

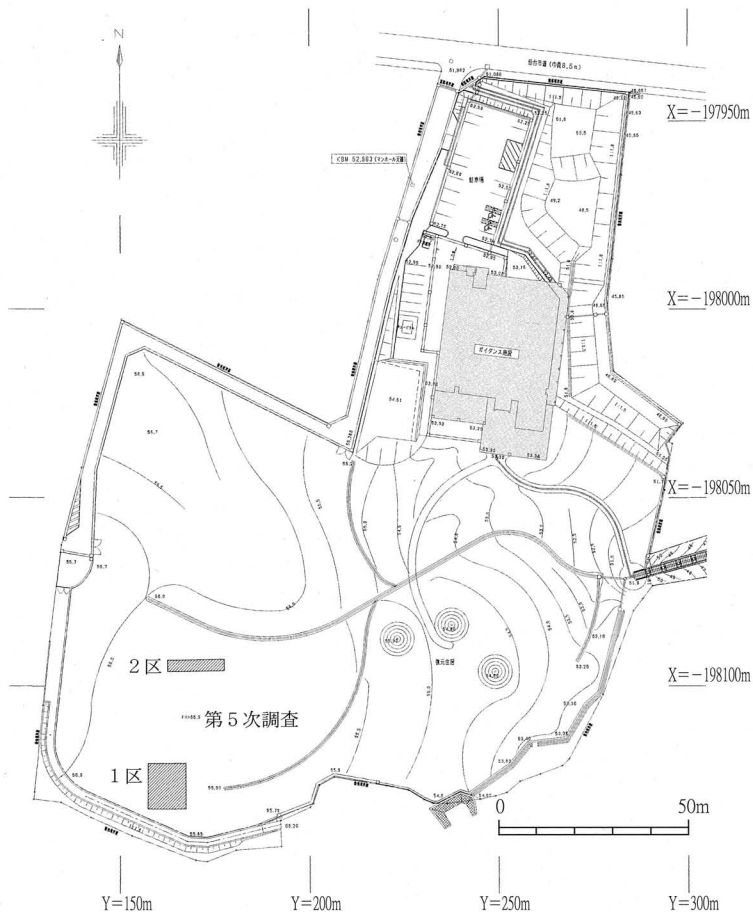
住居跡には遺構を保護するため土のう袋で保護し、人力にて埋め戻し作業を行い、その後重機にて埋め戻し、10月19日(金)までに今年度の調査を終了した。



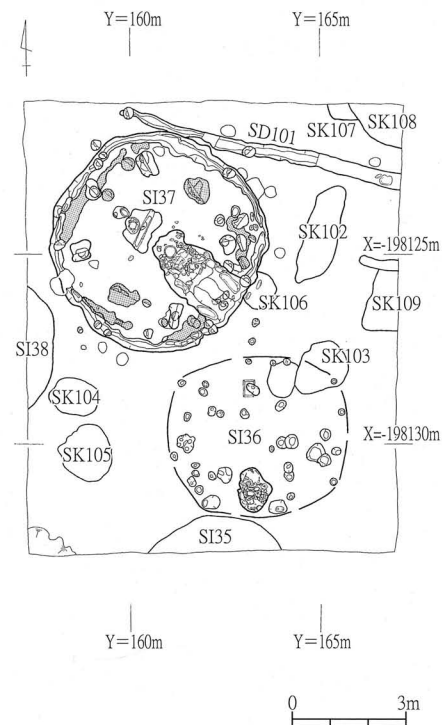
第1図 周辺の遺跡と地形

No.	遺跡名	立地	種別	年代
1	山田上ノ台遺跡	段丘	集落跡	旧石器(後)・縄文(早・中・後)・平安・近世
2	北前遺跡	段丘	集落跡	縄文(早・中)・平安・近世
3	御堂平遺跡	段丘	集落跡	縄文・平安・中世
4	山田糸里遺跡	段丘	水田跡・屋敷跡	縄文・平安・近世・近代
5	上野遺跡	段丘	集落跡	縄文(中～晩)・奈良・平安
6	船渡前遺跡	段丘	包含地	縄文・弥生・奈良・平安
7	鍛冶屋敷A遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晩)・奈良・平安
8	鍛冶屋敷前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晩)・奈良・平安
9	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文・古墳・古代
10	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(早・前・後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
11	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(中・晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世
12	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡	縄文(早・晩)・弥生
13	富沢遺跡	自然堤防・後背湿地	包含地・水田跡	旧石器(後)・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
14	原遺跡	段丘	古墳・集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
15	三神峯遺跡	丘陵	集落跡	縄文(前・中)・平安
16	芦ノ口遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳
17	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳

表1 周辺の遺跡地名表(旧石器・縄文時代の遺跡)



第2図 調査区位置図



第3図 1区平面図



第4図 遺構配置図 (■以外は、第1次調査で検出した遺構)

Ⅱ 遺構と出土遺物

昨年度、1区において竪穴住居跡4軒、溝跡1条、土坑8基(第3図)、2区において遺物包含層を確認している。なお、遺構検出面の上位の土層は、第1次調査時に埋め戻した土と縄文の森広場造成時の盛土となっている。

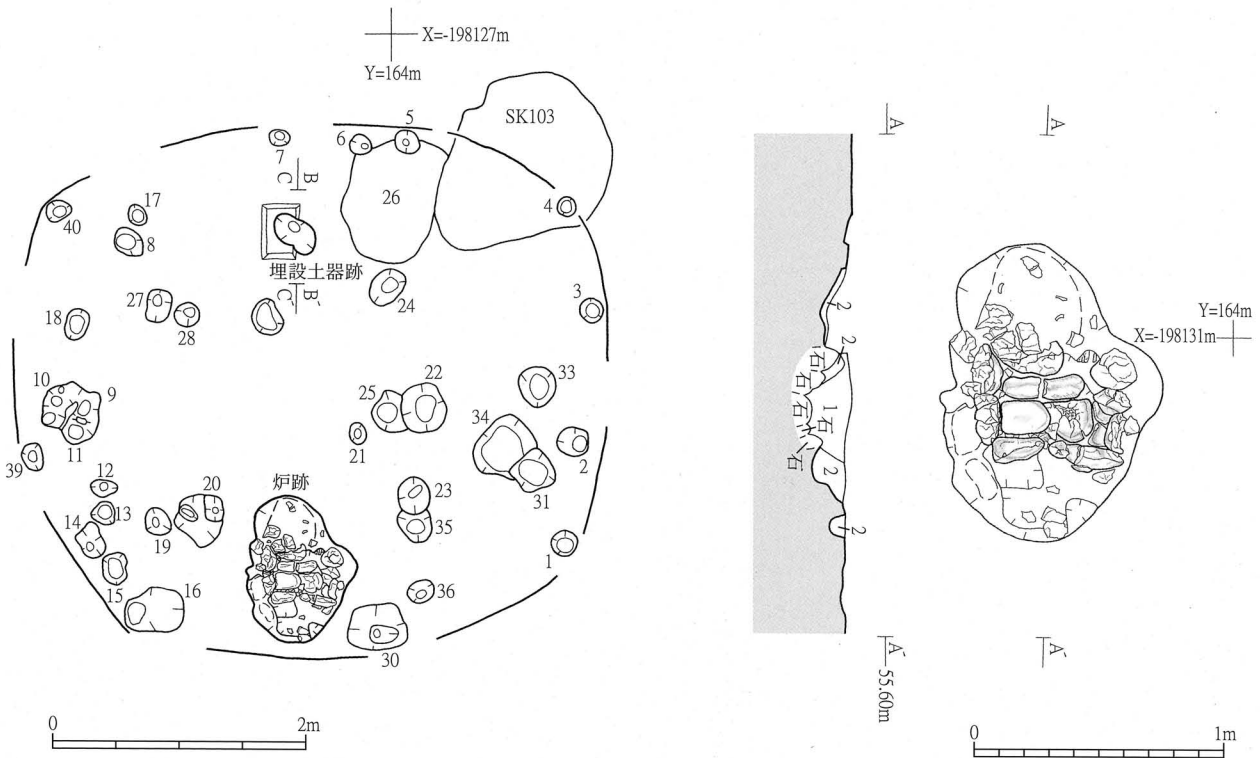
以下、今年度調査を行ったSI36竪穴住居跡、SI37竪穴住居跡、2区の遺物包含層について概述する。

1. SI36竪穴住居跡 (第5・6図)

SI36は調査区南東部で確認した(第3図)。SK103を本住居跡が切っている。SI36は残存状況が悪く、南側に炉跡を確認したが、はっきりとした床面は確認できなかった。炉跡の位置、ピットの配置、および第1次調査の確認状況から、径約4.2~4.8mのほぼ円形であると考えられる。ピットにはいずれも柱痕跡は認められなかった。位置や深さなどから柱穴として、P19、20、23、35、24、27、28が考えられる。

炉跡は住居跡南側に位置し、最大長118cm、最大幅89cmである。石組部北側の凹みが埋設土器の掘り方残存とみられることから、炉は複式炉と考えられ、石組部の底面から壁面にかけては火熱のため赤変していた。

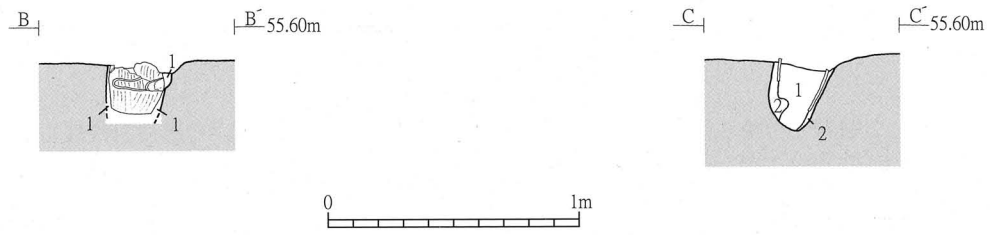
なお、炉の延長線上に埋設土器(写真28-2)を確認している。埋設土器は体部径約24cmの深鉢で、隆線による「J」字状文が施文されている。この土器から縄文時代末葉の大木10式期の住居跡と判断される。



第5図 SI36平面・断面図

層位	色調	性質	混入物・その他
1	10YR3/3 暗褐色	粘土	焼土粒・木炭粒微量
2	10YR4/4 褐色	粘土	暗褐色粘土を斑状に含む、焼土粒微量

SI36炉跡土層註記表



第6図 SI36埋設土器断面図

層位	色調	性質	混入物・その他
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	黄褐色粘土ブロック(径5mm)少量、木炭粒微量
2	10YR4/4 褐色	粘土	黄褐色粘土粒微量、木炭粒微量

SI36埋設土器土層註記表



写真3 SI36竪穴住居跡 全景(南から)



写真4 SI36竪穴住居跡 埋設土器



写真5 SI36竪穴住居跡 炉跡

2. SI37竪穴住居跡（第7・8図）

SI37は調査区北西部で確認した(第3図)。本住居跡はSK106を切っている。

SI37は残存状況がよく、規模は炉の長軸方向(南東方向)で5.6m、その直交方向で5.7mである。壁高は10~25cmで、住居の残存状況は比較的良好である。平面形はほぼ円形であるが、北西側と南東側がやや直線的になる。床面は貼床されており堅い。また、壁際から中央部に向かって傾斜しており、その比高差は20cm程である。周溝は炉部分を除いて全周している。床面で32個のピットが検出されているが、支柱穴と推定されるのが、P1, 2, 6, 8, 29の5基で、長軸50~70cm、短軸32~55cmの不整形形・楕円形で、深さは約40~70cmである。いずれも柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径約20~30cmの円形である。その他に壁材の支柱痕などの可能性があるピットとして、P13, 14, 15, 17, 20, 21, 23, 26, 27の9基がある。

堆積土は6層に大別され、いずれも自然堆積である。

炉は住居跡南東部に位置し、土器埋設石囲部と敷石石組部、石組部からなる複式炉である。規模は最大長272cm、最大幅133cmで、平面形はダルマ形である。埋設土器(写真28-1)は径30cmの深鉢の上半部で、体部に隆線による横位の「S」字状文が施され、「S」字状文の区画内に縄文が充填されている。土器埋設部とその周辺、敷石石組部の底面から奥壁にかけて赤変しており、火熱を受けた痕跡が認められる。

床面中央からやや北西寄りの炉の長軸上で径約20cmの石囲いを伴う埋設土器を検出している。

周溝の内側で人為的に埋め戻された周溝とピットを検出しており、建替え(拡張)が行われたと考えられる。古い住居跡の支柱穴はP3, 5, 10, 28, 31が想定される。P3, 5, 10, 28では柱痕跡を確認している。

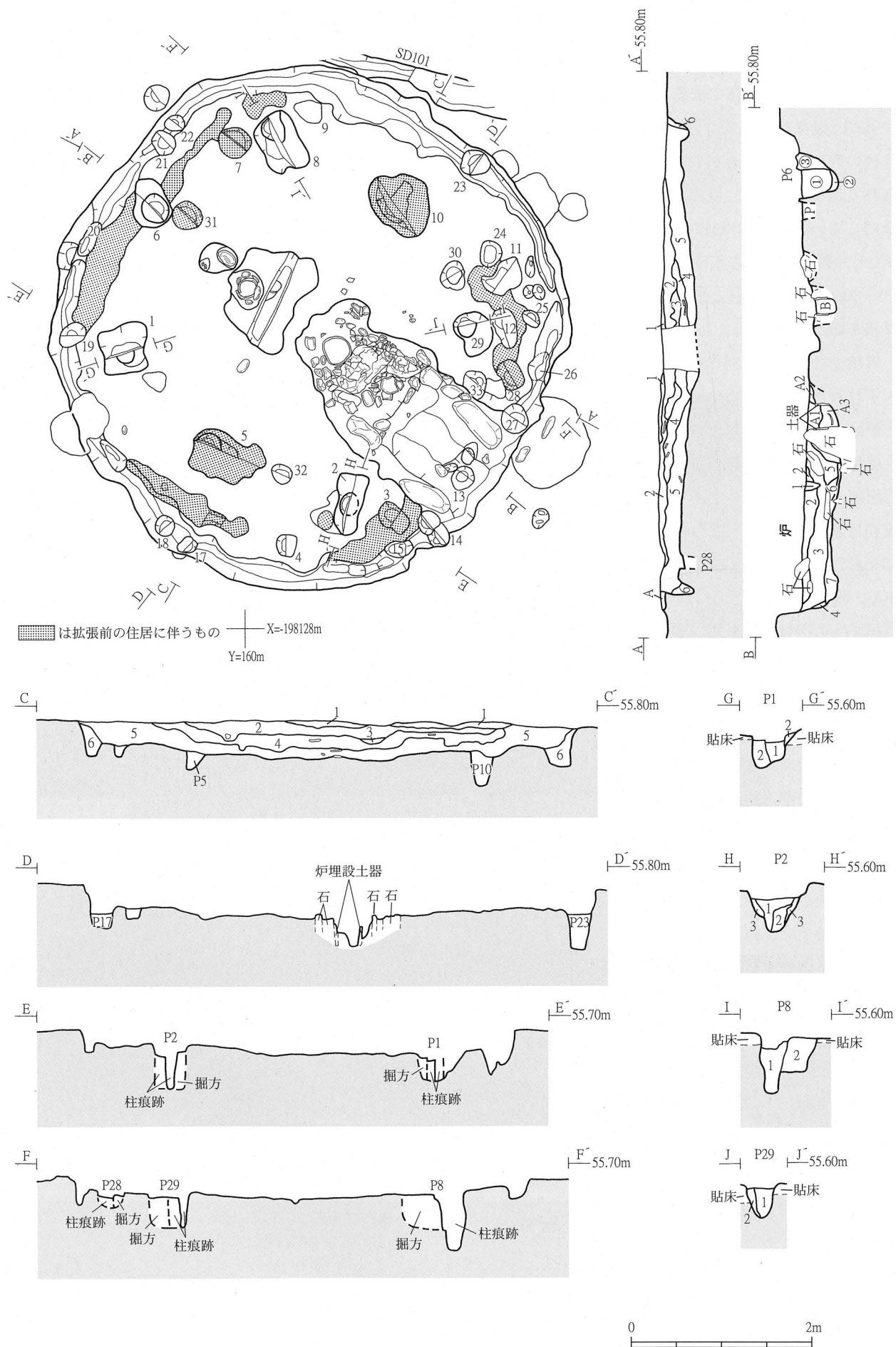
炉の埋設土器から縄文時代中期末葉の大木10式期の住居跡と判断される。



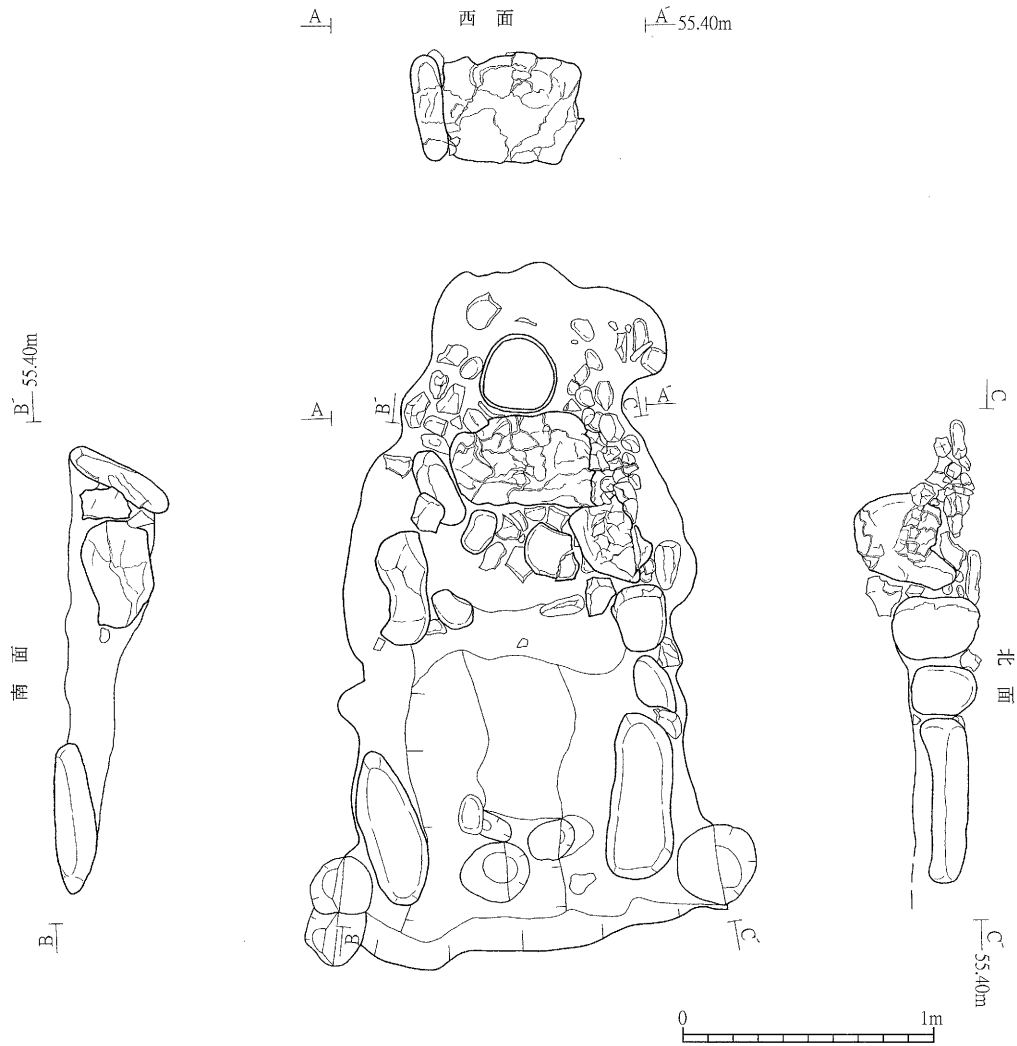
写真6 SI37竪穴住居跡 全景(南東から)



写真7 SI37竪穴住居跡 炉跡



第7図 SI37平面・断面図



第8図 SI37炉跡

	層位	色調	性質	混入物・その他
住居内堆積土	A	10YR3/3 暗褐色	粘土	褐色粘土ブロック少量
	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	焼土粒微量
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土	焼土粒・木炭粒微量
	3	10YR4/4 褐色	粘土	暗褐色粘土ブロック少量、褐色粘土粒少量
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土	褐色粘土ブロック少量、褐色粘土粒多量、焼土粒・木炭粒微量
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト質粘土	暗褐色粘土粒微量、焼土粒・木炭粒少量
炉	6	10YR3/4 暗褐色	粘土	褐色粘土粒多量、しまりなし
	1	10YR2/3 黒褐色	粘土	木炭粒微量、やわらかい
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土	木炭粒少量
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土	黄褐色粘土粒多量
	4	10YR4/4 褐色	粘土	
	5	10YR3/4 暗褐色	粘土	木炭粒微量、やわらかい
	6	10YR3/3 暗褐色	粘土	黄褐色粘土粒多量、焼土粒・木炭粒少量
	7	10YR4/4 褐色	粘土	褐色粘土ブロック(径5~10mm)多量
	A1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒微量、やわらかい
	A2	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒多量
A3	7.5YR3/4 暗褐色	シルト質粘土	焼土粒多量、木炭粒少量	
石埋埋設土器	B	10YR3/4 暗褐色	粘土	木炭粒微量
P6	①	10YR3/4 暗褐色	粘土	褐色粘土ブロック(径5mm)少量
	②	10YR4/4 褐色	粘土	褐色粘土ブロック(径5mm)多量
	③	10YR4/6 褐色	粘土	褐色粘土ブロック多量
P1	1	10YR4/4 褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロック少量、やわらかい
	2	10YR4/4 褐色	粘土	黄褐色粘土ブロック少量、やや硬い
P2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土粒微量、木炭粒微量、やわらかい
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土	黄褐色粘土粒微量、やわらかい
	3	10YR4/6 褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土粒多量、スコリア粒微量
P8	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土粒微量、木炭粒微量、やわらかい
	2	10YR4/6 褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土粒多量、スコリア粒微量
P29	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	黄褐色粘土粒微量、やわらかい
	2	10YR5/6 黄褐色	粘土	暗褐色粘土を斑紋状に含む、硬い

SI37土層註記表



写真8 SI37竪穴住居跡 炉跡断面

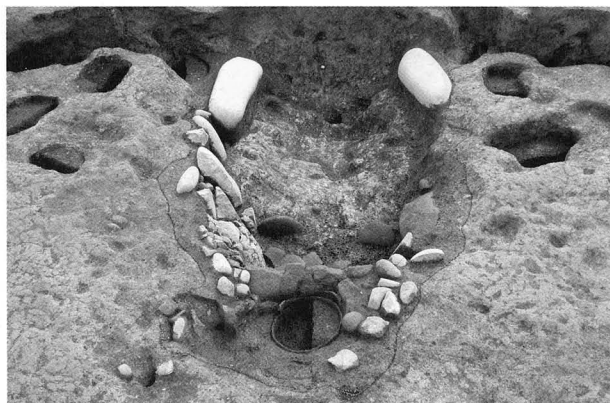


写真9 SI37竪穴住居跡 炉跡



写真10 SI37竪穴住居跡 炉跡埋設土器



写真11 SI37竪穴住居跡 炉跡埋設土器



写真12 SI37竪穴住居跡 石囲埋設土器



写真13 SI37竪穴住居跡 ピット29



写真14 SI37竪穴住居跡 ピット6



写真15 SI37竪穴住居跡 ピット8

3. 遺物包含層

1区北側に遺物包含層の調査として、遺物包含層の境界域が調査区内に入るように2区を設定した。昨年北壁際に40cm幅のサブトレンチを設定し、遺物包含層の上面を確認している。

調査区の東側のG2で遺物包含層の境界域を確認した。また、調査区の西側のG4とG5で礫の集積を確認している。人為的に集積されたものと推測されるが、調査途中のため、詳細については次年度精査を行う予定である。



写真16 2区 遺物包含層全景（西から）



写真17 2区 G5



写真18 2区 G4



写真19 礫集積部拡大（G5）

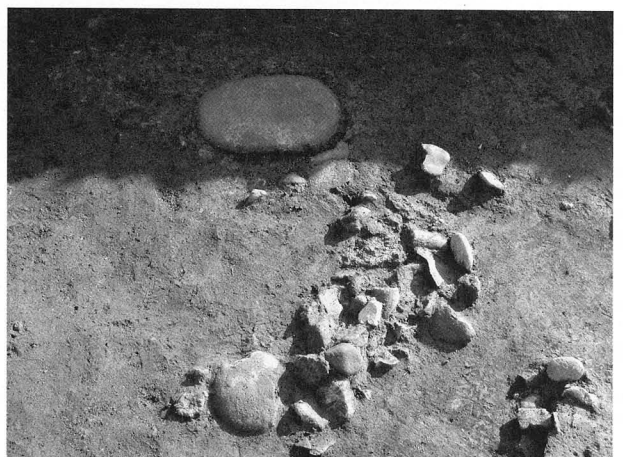


写真20 礫集積部拡大（G4）

Ⅲ 体験活動

体験活動では、募集・学校との調整・当日のオリエンテーション等は、縄文の森広場が担当し、当日の体験内容や調査時の指導等については、仙台市教育委員会が担当した。

1. 学校を対象とした発掘体験

昨年度から「縄文の森広場」が体験活動の場であることから、市内の小中学校を対象に活動の参加を呼びかけ、発掘体験を行った。今年度は小学校1校30名が体験を行い、体験活動では、発掘調査の方法や器材の使用方法を学びながら、2区の遺物包含層の調査を実際に体験した。

発掘体験の流れ

オリエンテーション① (30分)
『発掘調査について』
遺跡とはどういうものか等、発掘調査についての基礎的な知識から、実際に調査する時の注意点について学ぶ。



オリエンテーション② (20分)
『道具の使用方法について』
実際に使う道具を用意し、それぞれの道具の名称や使用方法について学ぶ。



発掘体験 (60分)
遺物包含層の調査



片付け (10分)

体験した作業
2区遺物包含層
・1層精査 ・掘削土ふるい作業



写真21 オリエンテーション



写真22 遺物包含層の調査



写真23 ふるい作業

【児童の感想】

- ・昔のゴミ捨て場だったところから色々な物を見つけました。私が見つけたのは、やりなどの先に付ける矢じりを2つと赤い土器の破片を1つです。とても楽しかったです。
- ・発掘作業はあまりできないので、やれて良かったです。土器のかけらや石器を作ったときのかけらがあって、びっくりしました。もっといっぱいあると思ったけど、時間になって発掘できませんでした。けれど、体験できて良かったです。
- ・土器のかけらなどをいっぱい見つけました。友達は矢じりのかけらを見つけてすごいなあと思いました。手首を回して、くりくりっと土をほるのがむずかしかったです。

2. 一般を対象とした発掘体験

9月9日(日)と9月30日(日)に、一般を対象とした発掘体験を行った。SI37竪穴住居跡や遺物包含層の調査やふるい作業に一般の方23名が参加した。

次年度以降についても、発掘体験は継続して行っていく予定である。

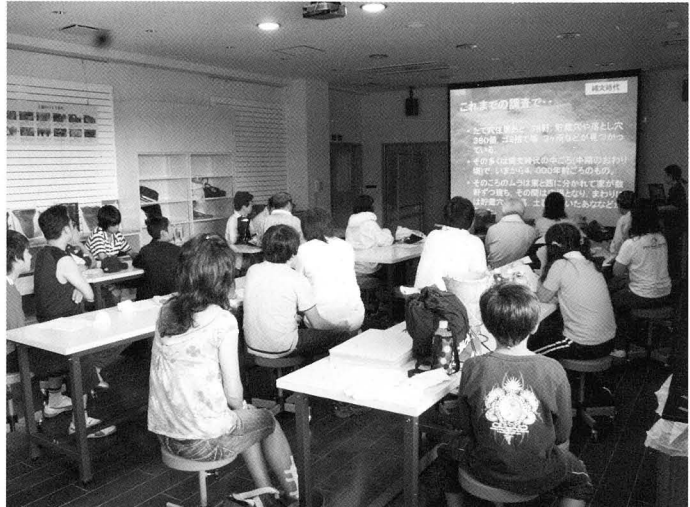
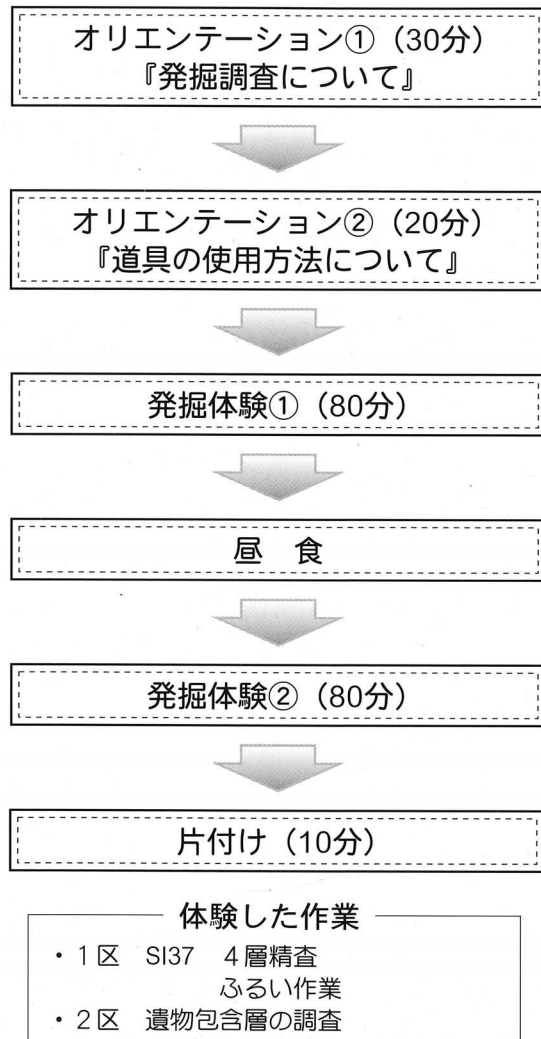


写真24 オリエンテーション



写真25 遺物包含層の調査

【発掘体験者の感想】

- ・ 今回縄文土器発掘体験は期待通りの土器を発見できたので、大変よかった。
- ・ 時間の割には少しずつしか進まずとても大変だった。発掘体験は今回が初めてで疲れましたが、有意義でした。
- ・ 本物の遺跡の中で本物の土器のかげらや石器のかげらを見、掘り上げることができた。一度発掘作業の体験をしてみたかったので、今回体験できて満足しています。また参加してみたいと思います。



写真26 SI37竪穴住居跡の調査

3. 一般を対象とした整理作業体験

調査終了後、縄文の森広場施設内において、整理作業体験を行った。一般を対象に毎月1回、遺物包含層の遺物の整理作業を行い、毎月数名の方が参加した。

整理作業では、遺物を水洗いするときの注意点や、道具の使用方法について学びながら、実際に調査で出土した遺物を水洗いする作業や拓本作業を体験した。

次年度以降についても、整理作業体験を行っていく予定で、作業内容については、遺物のネーミングや接合なども行っていく予定である。



写真27 整理作業体験の様子

体験した作業

- ・遺物の水洗い
- ・拓本

【整理体験者の感想】

- ・全て楽しかったです。初めてやることばかりだったので、こんな風にやるんだなと体感することが出来ました。洗浄では模様が見えるようになり、拓本ではお持ち帰りのお土産になり思い出になりました。ありがとうございました。
- ・前回のこの体験に参加できなかったけれど、今回参加出来てよかった。また出来ることが多くなってよかった。またやっていたらまたやりたい。

IV まとめ

今年度の調査は、継続調査の2回目として行った。来年度以降も毎年一定の期間継続して調査を行っていく予定である。今年度は1区のSI36竪穴住居跡、SI37竪穴住居跡を中心に調査を行い、縄文時代中期末葉の大木10式期の住居跡であることが明らかとなった。2区の遺物包含層はまだ調査途中であり、今回は調査の経過報告とし、詳細については次年度以降報告したい。

参考文献

- 仙台市教育委員会 1987 『山田上ノ台遺跡』 仙台市文化財調査報告書第100集
- 仙台市教育委員会 1987 『北前遺跡』 仙台市文化財調査報告書第105集
- 仙台市教育委員会 1989 『北前遺跡』 仙台市文化財調査報告書第129集
- 仙台市教育委員会 2003 『山田上ノ台遺跡』 仙台市文化財調査報告書第265集
- 仙台市教育委員会 2007 『山田上ノ台遺跡』 仙台市文化財調査報告書第308集

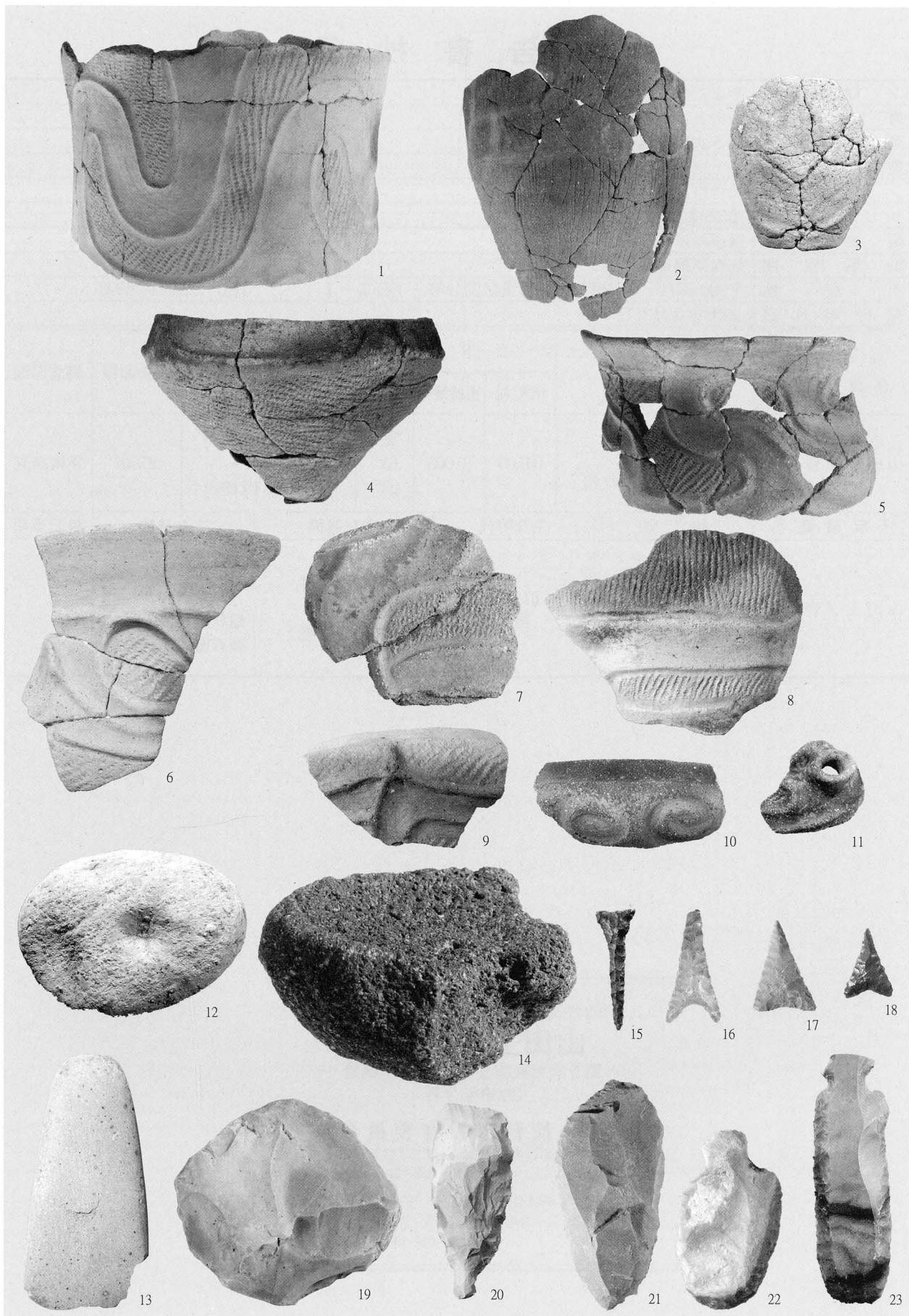


写真28 出土遺物

1. SI37竪穴住居跡炉埋設土器 2. SI36竪穴住居跡埋設土器 3~23. SI37竪穴住居跡堆積土
 (スケール: 1~5 ≒ 1/5, 6~14 ≒ 1/3, 15~23 ≒ 2/3)

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまだうえのだいせいせき							
書名	山田上ノ台遺跡							
副書名	第5次発掘調査 平成19年度概報							
巻次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第329集							
編著者名	齋藤義彦							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1				TEL 022-214-8893			
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまだうえのだいせいせき 山田上ノ台遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 たいほくくやまだうえのだいせいせき 太白区山田上ノ台町	04100	01003	38° 13′ 03″	140° 49′ 58″	20070828 ～ 20071019	165m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
山田上ノ台遺跡	集落	旧石器 縄文		竪穴住居跡 土坑 遺物包含層		石鏃, 石錐, 尖頭器, スクレーパー, 円 盤状土製品, 石核, 礫石器等		

仙台市文化財調査報告書第329集

山田上ノ台遺跡

— 第5次発掘調査 平成19年度概報 —

2008年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

文化財課 022 (214) 8893

印刷 株式会社 建設プレス

仙台市青葉区折立三丁目2-10

TEL 022 (302) 0177

